

90 分で分かる ビジネスパーソンのための認知科学④ 動機付けのしくみ
補足と練習問題

2022/3/11 羽山 博

(C) 2022 Rogue International

(※この資料は再配付しないでください)

◆ 練習問題

(1) みなさんがこの講座を受けるに至った「動機付け」について、市川, 1973 のモデルにそって考えてみてください。

- ・内発的だったでしょうか、外発的だったでしょうか
- ・その場合、何を指向していたでしょうか(例:「動機付け」について学ぶことが面白そうだ→充実指向、仕事として仕方なく→報酬指向、など)
- ・今後、どのような方向に進んでいけばいいと思うでしょうか

(2) 今回、動機付けのモデルとして「期待－価値理論」「達成目標理論」「自己決定理論」の3つを紹介しました。紹介したのはあくまで概要ですが、最初の「学生の意見」にあったようなさまざまな側面において、期待や価値、信念(志向性)、学習感、自己効力感が、動機付けとどのような関係があるか、どのように影響を及ぼすかといったことが詳細に検討されています(興味のある方は参考文献などにあたってみてください)。

しかし、実際のところ、動機付け全体をモデル化するような統一的な理論は構築されているとはいえない状況です。それでも、個々のモデルや研究結果から、動機付けをコントロールするという観点では、役に立つヒントが得られたのではないかと思います。そこで、自分自身が何かを身につけたいときや何かに取り組むとき、どのように考えているか、どのように捉え直せばいいのか、考えたことを書き出してみてください。

(3) 以下のような事例についてちょっと考えてみてください。

- ・子供がテストで悪い点を取ったので叱ったら、次はいい点を取ってきた
 - ・子供がテストでいい点を取ってきたので褒めたら、次は悪い点を取ってしまった
- ということがあったとします。動機付けという観点でこのことについてどう説明するか考えるとともに、動機付け以外の観点からもこのことについて考えてみてください。